

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201827		
法人名	医療法人種栄会		
事業所名	グループホームほほえみ (そらユニット)		
所在地	長崎県佐世保市萩坂町1750-1		
自己評価作成日	平成21年10月17日	評価結果市町村受理日	平成22年1月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所		
訪問調査日	平成21年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会やクリスマス会を開催し、家族と共に過ごす機会を作っている ・町民運動会や夏祭りなどの地域行事には積極的に参加をし、地域の方々との交流を図っている ・定期的に介護教室を開催し、地域の方々にもグループホームに対する理解を深めてもらう機会を作っている ・リハビリに力を入れており、予防の観点からもホーム内で出来るリハビリを積極的に行なっている ・月1回饅頭販売を行なっており、好きな饅頭を選んでもらい喜ばれている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域に根ざした医療機関が母体となっており、併設のデイサービス利用者と入居者との交流が入居者の楽しみにつながっている。家族は医療との密接なつながりがあることで安心されている。リハビリ部門もあり本人の体力維持に貢献している。グループホームの基盤は地域との関連が大切であることは、管理者や職員に浸透しており、安心した介護を実践されているホームである。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、職員全員、常に理念を意識してサービスを実践できるよう、フロア内に提示している	理念は、事業所の名前を基に作成され、職員全員が常に念頭に置いた介護を実践されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行なわれる夏祭り・地区運動会・公民館祭りなど、積極的に参加し、地域住民との交流を図っている。また、幼稚園児の訪問・小中学生の体験学習の受け入れなども行なっている	実践状況に挙げられていることに加え、年に1回介護教室を開催し、認知症の理解を深める目的で地域へ還元している。中学校の運動会や夏越まつりでは席を設けていただくなど、日常的な地域との交流がうかがえる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として介護教室を開催し、地域の方々へ認知症の人への理解や、高齢者への理解を深めてもらうよう努めている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で近況報告や、そのときのテーマに沿った話し合いを行なっている。また、その場に出された意見を参考にし、より良いサービスの提供が出来るよう努力している	なるべく2ヶ月に1回開催出来るように努めている。	現在入居者の会議への参加が実施されておらず、入居者の会議出席への取り組みに期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で、市の職員にも参加してもらい、現状や日頃の取り組みについて報告している	地域包括支援センター職員が参加されており、会議の報告書も毎回提出している。運営推進会議を行う上での参考となる議題の案や助言を求めるなど積極的に連携を取られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止推進員養成研修」に参加。そこで学んだことを事業所へ持ち帰り、勉強会を行なった。また、マニュアルをおき、いつでも見れるようにしている	継続して身体拘束の研修や勉強会を行っており、職員も理解している。若年性の認知症の方が一人での外出傾向があるが、主に職員や業者が出入りするドアのみ施錠し、行動の抑制は最小限度に留める努力をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法についての勉強会を行い、「虐待」についての理解を深めている。日々の支援の中で虐待に繋がるような行為がないか、職員間で確認しあい、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見人制度について理解している職員は一部であり、今後、勉強会などへの参加を検討し、必要時に支援できる体制を整えていきたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人や家族がわかりやすい言葉を使いながら、安心感を得られるような対応を心掛けている。疑問点を尋ね、十分に理解・納得していただけるよう努めている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置しており、不満や苦情が出た際はその原因追求と改善策を検討し、運営の向上につなげている。また、運営推進会議にて家族の意見を聞くことができ、運営に反映できるよう努めている	家族と施設長とのコミュニケーションが円滑に取れており、要望や意見を現場職員と随時話し合いをおこない、運営に反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体カンファレンスにて、スタッフ同士の意見交換を行い、運営に反映することが出来ている。また、日頃から職員が意見を伝えられるような環境づくりが出来ている	他のホームの職員と交流する機会として、グループホーム連絡協議会に職員の参加がなされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業はほとんどなく、就業規定は守られている。職員の資格所得に向けた支援を行っており、向上心を持って働けるよう努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で勉強会を実施したり、事業所外で開かれる研修などの案内を掲示し、積極的な参加を促している。資格所得の指導を行い、職員のスキルアップを図っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への加入で同業者と定期的に意見交換のできる場を持っている。協議会主催の勉強会も開かれており、参加することで交流の場が持てサービス向上へつなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に居宅の担当ケアマネージャーと連携をとり、本人の生活リズムや不安なことなどを把握し、信頼関係づくりに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅のケアマネージャーと連携し、家族と十分な話し合いを行い、家族の要望・希望を理解し、サービス提供が行なえるよう、信頼関係づくりに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話や行動の中から、本人・家族の要望・希望を把握し、また、必要に応じて、医師・看護師・理学療法士と連携を図り、相談しながら適切なサービス提供に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話の中で、本人の思いを知ることにより、努め共感する。利用者の得意なこと(料理や掃除など)で力を発揮してもらい、お互い支えあい、生活できるよう努めている		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、ホームでの生活の様子を手紙に書いて送ったり、家族が面会に来た際には、日々の状態を報告し、また、何か要望があれば傾聴し、家族と共に利用者を支援している		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスなど地域の人々が集まる場へ出向き、馴染みの人たちとの関係を維持している	年賀状が書ける入居者は職員が見守りや助言をし、ご自宅にいた頃と変わらないお付き合いが出来ている。継続や、顔馴染みの方のデイサービス利用日には入居者がデイサービスへの訪問をされており、なじみの関係の継続を實踐されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の情報、関係を把握し、特技や個性をうまく活かしながら作業や役割を持ち、支えあい、利用者同士の関係がうまくいくようスタッフが調整役となる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、居宅のケアマネジャーと連携を図りながら、本人・家族の思いを把握し、必要に応じて再利用できるよう、又、本人が気軽に訪問できるような関係性を保てるよう努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけし、言葉や表情などから本人の意思を確認し、困難な場合は家族から情報を得て、本人にとってどのような暮らしが最良なのか検討している	入居者のいつもとは少し違う様子をよく観察されている。入居者とのコミュニケーションをとりながら個別の意向や思いの把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら生活歴をケアマネジャーとの連携を図り、家族や本人より情報を得るように努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し、体調に合わせながら、できることに注目し、その人全体の把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聴き、職員全員でカンファレンスを行い、意見交換をしながら介護計画の作成に取り組んでいる	ケアプランは本人のものであるという事を常に念頭に入れ計画作成をしている。月1回のカンファレンスは、日常の支援の中で自分達が行っているケアを文章化できるように、スタッフの気付きや意見交換をして、ケアプラン作成に活かされている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・排泄などの状況及び、日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなどを記録している。また、職員間で確認できるように申し送りなどを行っている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人及び家族に状況に応じ、法人としての多機能を利用し、希望に応じたサービスを提供している。また、認知症対応型通所介護を提供することで、地域の方々の支援にも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催し、民生員や地域住民との意見交換の場を設けている。また、ボランティアや小中学生の体験学習などの受け入れを行なっている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医療機関のほか本人や家族の希望がある場合には、家族に同行していただき、他医療機関での受診をしてもらっている	併設医療機関の医師が入居前からのかかりつけ医であった入居者が多く、専門外の医療機関受診は、家族が連れて行くことで適切な医療を受けながら家族との関わりを保ち、家族にも本人の状況を見ていただけるように支援を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関併設のため常に連携は取れている。ホームの中にも看護職員がいるため、日常の健康管理や状態変化に応じた支援が出来る		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を、医療機関に提供している。また、退院に向けて家族とも情報交換しながら、なるべく早く退院できるよう努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における見取りの指針」を定めており、必要時は家族への説明を行っている。家族・医師・看護師を交えて話し合いを行い、利用者や家族の意向を大切にしている	【看取りの指針】を作成されている。終末期が近くなった旨の説明が併設病院の医師から出た時に、ホームから指針の説明を行い家族の意向を確認している。状態が変化する度に医師を交えた話し合いを行い、家族と本人の納得がいくような支援を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時に対応できるよう、マニュアルを作成し、カンファレンスなどで確認をするようにしている。施設内にAEDを設置し消防署の協力を得て、心肺蘇生法及びAEDの使用法の研修を行なった		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と一緒に避難訓練を行なっているが、現在は火災時のみしか出来ていないため、今後は地震や土砂災害時の避難訓練も行なっていきたい	火災を色々なパターンで想定し、入居者と共に独自の避難訓練を行っている。また、ホームは地下水を使用しており、止水の際には近隣住民にも配水できる事を伝えている。	地域住民に呼びかけて、独自の避難訓練をすることなどを今後の課題として検討する姿勢があり、期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった対応や、そのときに必要な最適な言葉かけを行なうことで、入居者の尊厳を守ることが出来ている。また、職員間で秘密保持を徹底している	フロアの目が行き届く場所で、記録などを行っている。また、ふさわしくない言葉かけが出た時は、職員同士で注意しあっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションへの参加・不参加はもちろん、ホーム内での饅頭販売では入居者自らが食したいものを選んでいただけるような支援を行なっている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースにあわせた生活支援や、外出などの希望や要望にも添えられるよう、柔軟に対応している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望がある場合は、移動美容室や馴染みの理美容室を利用いただいている。行事や外出時などの化粧はもちろん、時々マニキュアを塗りおしゃれを楽しんでいる		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー決めから、食材の下ごしらえ、調理などできる範囲ではあるが、入居者と共に行なっている	入居者の能力に合わせて、野菜の下ごしらえや後片付けの茶碗拭きなど職員と共に行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に献立を管理栄養士にチェックしてもらっている。低栄養状態にある方には補助食品はもちろん、高タンパク質の食材や食品を食事に取り入れている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろん、週1回の義歯洗浄も行なっている。介助が必要だったり、歯ブラシがうまく使用できない方には、口腔ケア専用の用具を使い、口腔内の清潔を保持している。また、コップや歯ブラシの清潔にも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄のパターンを把握し、必要な入居者には時間誘導し、トイレでの排泄が出来るように支援している	個別の排尿パターンを把握して、誘導する際も小声で声かけ等個人の尊厳を守るようにし、本人に合わせた排泄介助をしている。	
44		便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便チェックを行い、水分補給・乳製品の摂取に努め、必要であれば主治医へ相談し、緩下剤などの与薬も行なっている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に日曜・祝日以外の午前中としているが、休みが続く場合には、入浴日を作っている。その時間帯に入ることが出来ない場合には、時間をずらしたり、個別に援助を行なっている	利用者が温泉気分を味わい、デイサービスの利用者・職員との交流の場として楽しみながら入浴して頂けるよう、基本的に併設デイサービスの大浴場での入浴としており、本人の希望や感染症が疑われる場合は、ホームで個浴をして頂いている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の生活リズムを大切にしている。活動や休息を促し、夜間良眠出来るよう努めている。疲労の程度に応じ、その都度居室で休んでいただいている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の効能・副作用・用法・用量の確認が出来るように資料をファイルし、内服薬に変更がある場合には注意事項などもあわせ、申し送りやバランスシートに記入し、職員全員が把握できるようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや食器拭き・洗濯物干し・掃除など、役割を持ち生活されている。自分の役割を意識され、ホーム内でも必要性を感じていただけるように支援している。退屈な時間が減少するように、入居者一人一人に合った作業を促している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時々天候や気候に応じ、近場での買い物・散歩・ドライブなど外出できる機会を作っている。希望に添った外出時にはスタッフの勤務調整を行い、個別に援助している。場合によっては家族の協力を得て外出の機会を作っている	インフルエンザの流行により、外出の機会も少なくなりがちだが、ドライブの車窓から景色を楽しんでもらうなど、工夫している。希望があれば個別に絵付けや映画、外食、ハウステンボス等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員管理となっているが、小額のお金を所持している方もいる。また、買い物時にはお金を渡し、入居者が支払えるように支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、その都度電話や手紙を出せるように支援している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけは入居者の手作りのもので、毎月カレンダーなどを作成している。また、季節感を味わっていただけるよう、花を飾ったり、居心地良く過ごせるように配慮している	共用空間の窓際のソファは、居心地良く過ごせるように、工夫をしている。季節の花やツリーの飾りつけなど職員と共に行われている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりになりたい場合には、各居室を利用されている。ソファや畳・テーブル席などを利用し、それぞれ自由に好きな場所で過ごされている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れたものや、好きなものを持ち込まれており安心して過ごせる場所となるよう、支援している	自宅で慣れ親しんだ物を持ち込まれ、仏壇や位牌、お孫さんが描いた絵などを置かれた部屋もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活が出来るよう、障害物を除去している。入居者の状態に合わせ、手すりや浴室などの生活環境を整え、安全確保と自立への配慮を行なっている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201827		
法人名	医療法人種栄会		
事業所名	グループホームほほえみ (はなユニット)		
所在地	長崎県佐世保市萩坂町1750-1		
自己評価作成日	平成21年10月17日	評価結果市町村受理日	平成22年1月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所		
訪問調査日	平成21年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同理念に基づいて、日々の仕事でも入居者に対するサービス提供(言葉かけ・態度・記録)を行っており、常に理念を意識できるように提示している		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での町民運動会・夏祭り・公民館祭りに参加したり、中学生の体験学習や幼稚園との交流など行っている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民を対象とした介護教室の開催をしている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議によって、事業所の活動及び、利用者の状況を報告しており、参加されている方々からの質問や意見を聞き、サービス向上に努めている		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で、市の職員にも参加してもらい、現状や日頃の取り組みを報告している		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアについて、常に意識しながら日々の支援を行っている。また、身体拘束廃止へ向けての勉強会を開催した		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の支援において虐待に繋がる行為はないか、職員間で話し合いながら防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について理解しているスタッフが少ない。今後は勉強会や研修に参加し、制度が必要なケースがあった場合に対応できるようにしていきたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書に従いわかりやすい言葉で、本人・家族へ説明している。疑問点など伺ったうえで同意を得ており、また、契約内容など変更があった場合は、文書などにて説明を行い同意を得ている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入居者の言動などから思いを察する努力をし、傾聴の姿勢でケアを心がけ、問題が発生した際はスタッフ間で対応策を話し合い、解決を図っている。また、運営推進会議を開催し家族や地域の方の意見を運営やケアに反映させている		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のカンファレンスを行い、職員同士の意見交換の場を作り、職員の意見に耳を傾け、運営に反映させている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業はほとんどなく、定められた就業規則はきちんと守られている。職員の資格所得に向けた支援も行なわれている。また、院内勉強会なども各自が向上心を持って働けるよう努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内では、全職員が参加の勉強会や講習会を定期的実施している。また、事業所外で開催される講習会や研修にも参加できるよう、ホーム内にも提示し、参加の働きかけを行なっている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、会議へ定期的に参加している。また、他の同業者と勉強会を通じて交流を深め、サービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い、本人の生活状況や求めていることが把握できるよう努めている。その他、居宅のケアマネージャーとも連携を取り、情報交換を行なっている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に見学をしてもらったり、相談を受け、家族の困っていることや思いを理解しながら、良い信頼関係を築いていけるように努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、本人・家族の状況や要望を確認しながら、必要なサービスの提供につなげている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で「生活の知恵」や「地域の歴史」などを教わったり、個々の得意分野で持てる力が発揮できるような場面作りや、声かけに配慮している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お手紙や面会時にホームでの暮らしぶりや近況を報告したり、家族の要望や意向を伺うことで、共に支援する関係作りに努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの美容室の利用を継続している入居者もあり、本人の意思を尊重している。地域行事の参加や併設施設での交流の場を設けるなど、継続したつながりが保てるよう働きかけている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係性に配慮し、スタッフが間に入って未然にトラブル回避できている。個別に話を聴いたり、みんなで過ごす時間を持ち、一人ひとりが孤立しないような場面作り心かけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、居宅のケアマネジャーと連携を図りながら、本人・家族の思いを知り、必要に応じて再利用できるよう、又、本人が気軽に訪問できるような関係性が保てるよう努力している		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や、個別に本人様の希望や意向を聞いている。また、困難なときは本人様の立場になり職員全員で検討している		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様より生活歴やこれまでの暮らし方などを聞き、また、居宅のケアマネジャーと情報交換を行い把握に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活リズムを理解するように努め、表情や小さな動作からも感じ取り、把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に本人や家族の思いを把握し、必要に応じて関係者と話しあい、また、毎月行なわれるカンファレンスの中で職員全体で話し合いながら介護計画を作成している		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事摂取量・排泄・身体の状態や、日々の暮らし、本人様の言葉・出来事を記録し、いつでも全職員が確認できるようにしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様への柔軟な支援はもとより、近隣の高齢者が状況に応じて、認知症対応型通所介護も利用できるようにし、多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて家族や民生員の方、地域の方から意見を出してもらい、ホーム内で饅頭販売を続けている。また、ボランティア・学生・幼稚園児との交流もあり、喜んで居られる		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医療機関とは随時連携をとり、適切な医療を受けられるよう支援している。また、他医療機関へは本人の希望や必要に応じて家族に同行してもらい、受診している		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関併設のため看護師との連携が行なわれている。また、看護師が職員として配置されているので、利用者一人一人の健康管理と状態把握に努めている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先の医療機関に情報提供を行い、また、利用者の負担を軽減できるよう努めている。退院時にも看護師・ソーシャルワーカーなどから情報を提供していただき、退院後の生活がスムーズに行くよう努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における見取りの指針」を定めている。出来るだけ早期から家族・医師・看護師を交えて話し合いを行なっている。急変時は、併設の医療機関との連携を図り対応できている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が急変時に対応できるよう、緊急対応マニュアルを作成している。また、消防署の協力を得て、AEDの使用法や心肺蘇生法などの勉強会を行なった		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回入居者と避難訓練を行なっているが、火災時のみしか出来ていないため、今後は地震や土砂災害時の避難訓練も行なっていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のこだわりや誇りを尊重した対応、声かけを心掛けている。個人情報が必要時以外は他言しないように徹底している		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら訴えられる方もいるが、自己主張がない方には、スタッフから声をかけ、コミュニケーションの中から気持ちを引き出せるように支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れ、リズムは作っているが、入居者が何をしたいか、何が出来るかを取り入れながら、個人のペースに合わせて支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	困難な方にはスタッフが準備し行なっている。自立されている方には、スタッフが声かけ見守りを行なっている。散髪は移動美容室、または、行きつけの店を利用している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とスタッフが同じ時間帯に食事をしている。料理を一緒に作ったり、後片付けも手伝ってもらっている。好物が食べられるようにメニュー作りにも参加してもらっている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水や便秘防止のため、毎食事以外でも工夫して、飲水を促している。好物を聞いて、コーヒーや紅茶などでも対応している。病気持ちの方は、一日摂取カロリーを把握して提供している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず全員に声かけ実行している。週に1回は洗浄剤にて、義歯の消毒を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない入居者にも時間を見計らって誘導を行なっている。オムツやパットが必要な方は、清潔保持に努め、できるだけトイレでの排泄が出来るよう支援をしている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす機会を適度に作ったり、下剤の調整や日頃より、乳製品や水分・食物繊維を多く摂るように促し、便秘を予防している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定を行い、体調や本人の希望に応じて午前中に入浴していただいている。また、休日などに希望がある場合には、その都度対応している		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望などを考慮して、一人一人のペースに合わせてゆっくり休息がとれる様、支援している。個々の睡眠パターンを把握しており、入居者の生活リズムを大切にしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より服薬カードを頂き、職員全員が確認できるようファイルし、処方時には薬剤師からの指導を受けている。内服の際は誤薬防止のために、二重チェックを行い、きちんと内服されているか確認している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫や食事作り、掃除など一人ひとりに適した事を無理なく行い、張り合いや充実した日々を送れるよう支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の気分、体調に応じて散歩やドライブなど行なっている。希望がある入居者にはスタッフと共に買い物へ出かけたり、また、家族と一緒に結婚式へ出かけたりもしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に職員が管理しているが、入居者の希望に応じご家族の了解を得た上で、本人管理とし、自由に買い物をしてもらっている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。また、気軽に電話しやすい雰囲気作りにも心掛けている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめに掃除をした上で障害物を取り除いている。また、入居者の意見を尊重しながら、カレンダーや壁飾りを作り、馴染みの音楽をかけるなど、生活感や季節感を取り入れている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂席の他に、自由にソファへ座られテレビ視聴を楽しむことができる。その際、入居者同士が話をしているときは、できるだけ間に入らず見守る程度にしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みのものを置くなど、入居者が居心地良く過ごしてもらえるよう支援している		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の混乱や失敗がないように、トイレや居室の入り口に目印や張り紙を貼って、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにしている。混乱や失敗が生じた際もスタッフ同士で話し合いをし、解決に向けて努力している		